

史上最高の
絶賛をあびて
遂に日本公開
が決定した、
感動の名作！

"MIDNIGHT
COWBOY"

デラックスカラー

真夜中の
カーボーイ

ダスティン・ホフマン
ジョン・ボイト
監督ジョン・シュレンガー
音楽ジョン・バリ

"EVERYBODY'S TALKIN'"

作詞作曲……………フレッド・シムル

編曲指揮……………ジョン・タイマートン

歌……………ホフマン

"A FAMOUS MYTH"

"TEARS OF JOY"

作曲……………J. ジョナサン

歌……………ホフマン

"HE QUIT ME"

作曲……………W. ウォルター

歌……………ホフマン

編曲指揮……………J. ジョナサン

"CROSSROADS OF

THE STEPPING STONE"

"JUNGLE GYM AT THE ZOO"

"OLD MAN WILLOW"

音楽製作……………ジョン・シュレンガー

歌……………ホフマン

編曲……………ジョン・シュレンガー

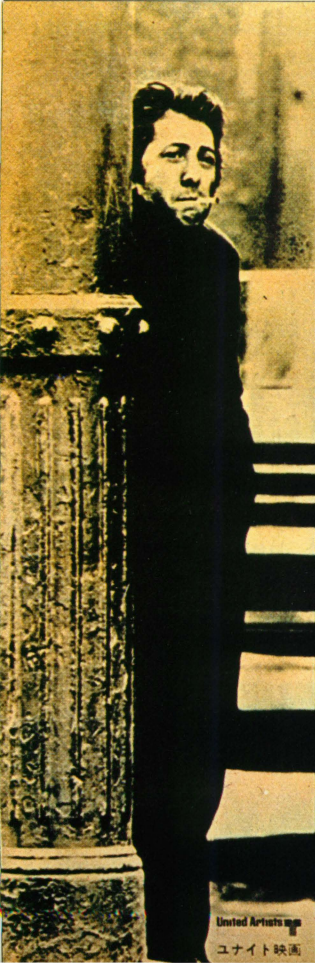
指揮……………ジョン・シュレンガー

録音……………ユニオン・サウンド・スタジオ

音楽……………ユニオン・サウンド・スタジオ

United Artists 聯合

ユナイテッド映画



真夜中の カーボーイ

デラックスカラー

"MIDNIGHT COWBOY"

1月13日より

渋谷スクランブル座

虚飾と偽りに満ちている大都会——
ニューヨーク。
群衆に固く密着してなお孤独を現代人。
その混沌のなかで——
孤独な若者……一人、そして一人。
富と栄光の夢を追う、ひどくカッコ悪い生活は若者にとつて犯罪である。

(ダズステイ、ホフマン)

ラットソス生れの都会のダニ。パートタイムにポン引きをしている小男。こすい、どぶネズミ、ラットソス。
空地に捨てた古い冷蔵庫のドアをこじあけて、這い出してきたような男。
黒く染めた髪、つき出したヒッ、みにくい歩き方、ひどくカッコ悪い、ビッコのベテナ師。
アウトサイド——
ラットソス。

(ジョン、ポイト)

六尺豊かな肉体和子供のようにあけつひろげな、無邪気な性格を持った男。教育もなくセックス、アビールだけを武器に遠くテキサスからやってきた男。
富と栄光の夢を追う、ひと肌ぬいで一旗あげねばならぬ。
二人の棲息が試行錯誤を重ねる中で確実に始まる。

孤独な若者……一人、そして一人。
ラットソスとしてジョー・バック

情報過多、日ごと夜ごと、放送されるラジオ、テレビ、あるいは婦人雑誌はジョーの心を激しくゆすった。激しくかきまわした。自分のような男こそ孤独で愛に飢えているニューヨーク御婦人たちの理想の男性であると信じきった。
ジョーは若者にとつてカッコ悪い仕事。ジョーは血洗いをふりきって勇躍ニューヨークに出た。カーボーイ・スタイルで。
真夜中のカーボーイ——青春を謳歌するなんてまっぴらぶりのウツツばかり。真夜中に一条の光もなしに暴れまわる畜生をこの頭脳とこの腕でつかと手ごたえ確かに捕えねばならぬ。それが青春らしきもの。それが信条。真夜中のカーボーイ。

大都会、ニューヨークで一人はつち。ジョー・バック。心は妄想でいたく含まみ、フトコロは痛く小さい。
こころで、ひと肌ぬいで一旗あげねばならぬ。そんな頃、酒場はそれもなくたびれた。酒場は人生のヘドを吐くところ。類は類を呼び、友をつくる。ラットソスを知る。ジョーは若い男の肉体を求め金持た女に喰らいつき金を得る。また、映画館で寄り添ってきたホモに身体を任せても金がないのを知るとメチャクチャにナぐる。

名譽と栄光はホモや女の体の中にはない。ラットソスは廃墟のようなアパートを寝暮らし、棲息は続く。足を引きつづて歩くその姿はまさに一歩前進二歩後退の有様で名譽と栄光は遙かラットソスを離れたところ……今日もまたニューヨークの街にはカッコイイ、ジョー・バックとひとくつかれたラットソスの姿がある。どこまで続くのだろう。遙か名譽と栄光の道を求めて……。

孤独な若者。
ニューヨークの舌、アメリカの若者の生態を鋭く抉った衝撃の問題作「真夜中のカーボーイ」主演はあらゆる意味で「卒業」したダズステイ・ホフマン。ジョー・バックに舞台出身のジョン・ポイト。映画デビュー、好演。監督に「ダリリング」遙か群衆を離れたのイメゲンが、アメリカで初めてメガホンをとった作品。イギリス人がアメリカの若者の生態をこれほど赤裸々に抉ったことがあつたらうか。製作を「素晴らしい男」のジェローム・ヘルマン。撮影にコマリシャル出身で劇映画初めでのアダム・ホルンダー。音楽はおなじみ、ジョン・バリ。

